

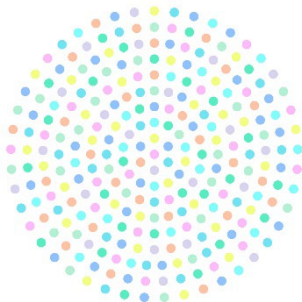
お知らせ

2026 年 9 月 14 日

キャノンマーケティングジャパン株式会社
関西大学
立命館大学
近畿大学

デジタルネイティブ世代が描くプリンティング領域の新たな体験価値 ichikara Lab が主催する関西 3 大学合同プロジェクトの最終発表会を開催

キャノンマーケティングジャパン株式会社（代表取締役社長：足立正親、以下キャノン MJ）の企業内起業 ichikara Lab（イチカララボ）と関西大学商学部横山恵子ゼミナール、立命館大学経営学部中原翔ゼミナール、近畿大学経営学部山縣正幸ゼミナールは、デジタルネイティブ世代の感性を生かし、プリントの新たな魅力や体験価値を創出することを目指して、ichikara Lab が主催する関西 3 大学合同プロジェクト（以下、本プロジェクト）を実施し、2026 年 7 月 31 日に関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE（カンダイミライズ）にて最終発表会を開催しました。



ichikara Lab

ichikara Lab ロゴ



最終成果報告会の様子

本プロジェクトは、ichikara Lab が日本国内のマーケティングを手掛けるミニフォトプリンター「iNSPiC／SELPHY」を題材に、デジタルとアナログを融合させたこれまでのプリントの在り方にとらわれない新しい価値創造を目指す活動で、昨年に続き複数大学のゼミナールとのコラボレーションを実施しました。本プロジェクトでは関西大学商学部横山恵子ゼミナール、立命館大学経営学部中原翔ゼミナール、近畿大学経営学部山縣正幸ゼミナールに所属する学生計 11 名が大学ごとのグループに分かれて、「従来のプリントのカたちにとらわれないデジタルとアナログを融合させた新しい価値を創造する」という課題に取り組みました。参加学生は若年層の価値観やニーズの分析からユーザー調査、企画立案までのプロセスを実践的に学び、学生同士や ichikara Lab 担当者との議論・フィードバックを通じてアイデアを磨き上げました。7 月 31 日に開催した最終発表では、「アナログだからこそ得られる価値」と「Z 世代ならではの視点」を掛け合わせた新しい体験価値を提案しました。

関西大学のグループは、好きな写真を使ってオリジナルカードゲームを作成できるアイデアを立案しました。テンプレートや自分たちの写真を使って簡単にカードゲーム制作ができ、注文後に外部印刷して購入できるというサービスです。友人同士やサークル・コミュニティでも楽しめるアイデアで、身近なコミュニケーションツールとしても活用できます。また、サービス内では自身が作ったカードゲームやテンプレートを販売することも可能で、CtoC（Consumer to Consumer：個人間取引）での印刷拡大が見込める点もポイントです。

立命館大学のグループは、大学にプリンターを設置し、近隣飲食店の写真と割引クーポン（QR コード）をランダムで印刷するアイデアを立案しました。クーポンの期限は 1 週間で、利用者が実際に店舗を訪れた後、食事の感想やおすすめポイントを写真に書き込んで感想ボックスへ投函すると、その内容が周辺マップに掲示されるというサービスです。周辺の飲食店を巻き込んだ取り組みであり、飲食店側から収益を得る仕組みも検討しました。また、大学に限らず企業などにも転用できる点もポイントです。

近畿大学のグループは、美容室にプリンターを設置して、施術後の一番きれいな髪をその場で撮影・プリントすることで、来店するたびに増える自分だけのヘアアルバムをつくるアイデアを立案しました。単なる記録だけではなく、割引クーポン（QR コード）も一緒に印刷し、次の来店につなげることを意識しています。さらに美容師の課題にも着目して、施術管理や SNS 発信との差別化、お客様とのコミュニケーションツールとしての活用を提案しました。お客さま・美容師・キャノン MJ の三者視点でサービスを検討し、ネイルサロンやペットサロンなどの他業態でも展開できる点がポイントです。

参加学生からは、本プロジェクトに対して「他大学や社会人からのフィードバックが新鮮で有益だった」、「課題やターゲット設定の検討でなかなか思うように進まないこともあったが、紆余曲折を経て最終発表までつなげることができた」、「アドバイスのおかげで新たな視点に気づき、アイデアをより良いものへとブラッシュアップできた」、「合同ゼミでは、自分たちだけでは気づけなかった多くの視点や考え方に触れることができた」、「来年以降もぜひ継続して開催してほしい」といった好意的な意見が上がりました。

今後 ichikara Lab ではオープンイノベーションプログラムも活用しながら、本プロジェクトを通して大学生とともに創造した新しい体験価値や言語化したインサイトをワクワクする未来の実現へとつなげていきます。

●ichikara Lab オープンイノベーションプログラム：

<https://corporate.jp.canon/profile/business/new-value-creation/ichikaralab/open-innovation>

〈プロジェクト実施の背景〉

デジタル化の進展により、私たちの生活はかつてないほど便利になりました。一方で、プリントを取り巻く環境や、その役割・価値も大きく変化しています。

ichikara Lab は、日頃から多くの若年層と活動を共にする中で、デジタルネイティブ世代にとってプリントが「新鮮な体験」として受け入れられていることを実感しています。画面上では得られない手触りや質感、手元に残る実体としての価値など、アナログならではの魅力が新たな楽しさや発見を生み出しています。

こうした可能性を背景に、ichikara Lab は従来のプリントの枠を超えた新たな価値創造に取り組んでいます。若年層の感性やアイデアを起点に、想いを共にする企業・団体との共創を通じて、これからの時代にふさわしい体験価値を創出し、人々の心を動かすワクワクする未来の実現を目指していきます。

〈プロジェクト概要〉

期間：2026 年 5 月 22 日（金）～7 月 31 日（金）

内容：

DAY1 オリエンテーション・アイデア発想ワーク

初日は、ichikara Lab の事業や組織紹介に加え、現在取り組んでいる課題について理解を深めるインプットセッションを実施しました。今回のテーマである「アナログとデジタルを融合させた、これまでのプリントのカタチにとらわれない新しいプリント体験」の設定背景や目的を共有し、参加学生の理解促進を図りました。また、昨年のプロジェクトで発表されたアイデアや実際の活用事例を紹介したうえで、「若者がプリントしたいと思わない理由」を起点に ichikara Lab が日頃活用しているフレームワークに沿ったアイデア発想ワークに取り組みました。

DAY2 マーケティングプランニングワーク

企画検討フェーズでは、ターゲット設定やユーザーニーズの捉え方、アイデアを企画として形にするための考え方など、企画立案に必要な視点を学ぶインプットセッションを実施しました。その後、DAY1 で創出したアイデアをもとに、アイデアシートを活用しながら企画の目的や提供価値、利用シーンを整理し、実現性や市場性の観点からブラッシュアップを行いました。また、中間発表に向けたグループディスカッションを通じて、企画内容の具体化と発表準備に取り組みました。

DAY3 中間発表・フィードバック

第1部では DAY2 以降に各自で実施した N1 インタビュー※1 や調査を行った結果、まとめを共有しました。グループ内だけではなく他グループの学生とも中間案を共有し合い、多角的な視点からフィードバックを行いました。同世代ならではの率直な意見交換を通じて、アイデアのさらなるブラッシュアップにつなげました。また、提案者・評価者の両方の立場を経験することで、企画を俯瞰的に捉える重要性や審査員視点を学び、最終発表に向けた改善点を整理しました。

第2部では、各グループがブラッシュアップしたアイデアを中間案として ichikara Lab へ発表しました。ichikara Lab 担当者から事業性や実現性など多様な観点でフィードバックが行われ、最終発表に向けて企画の魅力をさらに高めるためのアドバイスが共有されました。

※1. 特定の1人の顧客（ユーザー）に対して深く掘り下げてインタビューを行うことで、本質的なニーズや価値観、行動の背景を明らかにする方法。

DAY4 最終発表・フィードバック

最終日には、各グループがこれまでの検討成果をもとに、「アナログだからこそ得られる価値」と「Z 世代ならではの視点」を掛け合わせた新しいプリント体験を提案しました。それぞれのグループが創意工夫を凝らしたプレゼンテーションを行い、ユーザー視点や市場性、実現可能性を踏まえた多彩なアイデアを発表しました。発表後には ichikara Lab から講評とフィードバックが行われ、参加学生にとって実践的な企画立案プロセスを学ぶ機会となりました。

〈関西大学について〉

大学名：関西大学

学 長：高橋 智幸

所在地：大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

Web : <https://www.kansai-u.ac.jp/>

〈立命館大学について〉

大学名：立命館大学

学 長：仲谷 善雄

所在地：大阪府茨木市岩倉町2-150（大阪いばらきキャンパス）

Web : <https://www.ritsumei.ac.jp/>

〈近畿大学について〉

大学名：近畿大学

学 長：松村 到

所在地：大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号

Web : <https://www.kindai.ac.jp/>

〈ichikara Lab について〉

ichikara Lab は、若年層マーケティングの強化と新たな顧客層へのリーチを目指し、恒常的に幅広い若年層と活動しています。トレンドを生み出し波及する力のある若年層への本質的な理解を深め、いち早く未来につながるヒントを捉えています。「顧客の気持ちや生活に寄り添う新たな価値の提供」をミッションに若年層マーケティングから獲得したインサイトを活かした新規商品・サービスの企画・開発へ挑戦しています。

ichikara  *Lab*

● キヤノン MJ 企業内起業「ichikara Lab」WEB ページ : <https://corporate.jp.canon/profile/business/new-value-creation/ichikaralab>

● X アカウント : ichikara Lab/イチカララボ【公式】 (@ichikaraLab) <https://x.com/ichikaraLab>

ichikara Lab では、これまでのプリントのカタチを超えて、人々がワクワクする未来をともに生み出していけるサービスや技術、アイデアを募集しています。お問い合わせは、ichikara Lab WEB ページ最下部「CONTACT」よりお願いいたします。

● 報道関係者のお問い合わせ先	キヤノンマーケティングジャパン株式会社広報部	03-6719-9093
● ichikara Lab ホームページ	https://corporate.jp.canon/profile/business/new-value-creation/ichikaralab	
● 関西大学ホームページ	https://www.kansai-u.ac.jp/	
● 立命館大学ホームページ	https://www.ritsumei.ac.jp/	
● 近畿大学ホームページ	https://www.kindai.ac.jp/	